

頑張る

農業法人

京都市伏見区淀地区 替えた。

で、総菜業者や消費者から評判の「淀ねぎ」生産に35年間取り組む林種男さん(66)。

家族で立ち上げた農業法人「株式会社生種農園」では、息子の俊孝さん(32)が代表取締役に就き、生産技術を継承し、より高品質を目指している。

同地区は市の南西端で木津川、宇治川、桂川が合流する肥沃(ひよく)な土壌で、軟弱野菜の生産が盛ん。林さん宅も、昔から多種類の作物を作ってきた。種男さんが、20歳の時父が亡くなり、農業を継いだ種男さんは生計を立てるため、自分の経営に合う作物を確立しようと試行錯誤。35年前にネギ生産一筋に切り

高品質で安定した生産を続けるため、種男さんは防除剤を土に注入することでネギの抵抗性を高める防除技術を確立した。有機質肥料にもこだわり、施肥間隔を適時調整することで、ネギの緑色部分を柔らかく風味が豊かで甘みも増すようにすることに成功。これらが評価され、J A京都中央が主催する淀・羽束師地域の農産物品評会では、多くの知事賞を受賞している。

素材として高評価されたネギは、全国各地に店を出す大手総菜業者からも大量の注文があり、契約栽培で年間40トを出荷する。

息子の俊孝さんも農業系大学に進学し、卒業後

本格就農して父親のこだわり栽培を学んできた。後継者もできた中で種

株式会社 生種農園

京都市伏見区 淀



ハウスで「淀ねぎ」を育苗する種男さん(右)と俊孝さん

「淀ねぎ」生産に一筋

こだわりの栽培が高評価

支援も受けて、今年8月に家族で法人を設立した。

代表取締役に俊孝さんが就任、種男さんと妻初美さん(65)は取締役として経営に参加し、出荷作業時にパートタイマー1人を雇用する。

延べ2鉢で周年栽培するネギは、契約栽培の他同J Aと連携して市場出荷も行う。

法人化を機に皮むき機も最新型へ更新し、一層の品質向上と生産コストの低減により利益を確保する計画だ。

種男さんは「将来を息子に任し、伝統の『淀ねぎ』として提供を続ける」と語り、俊孝さんも「経営を任してくれたので責任を感じるが、父の思いを受け継いで頑張りたい」と、親子ともども意欲を見せる。

▽法人所在地 京都市伏見区淀生津町329。電話 075(631)5260。

男さんは、家計と経営を分離してより強固な経営基盤を確立しようと、同者)やJ A京都中央会の